

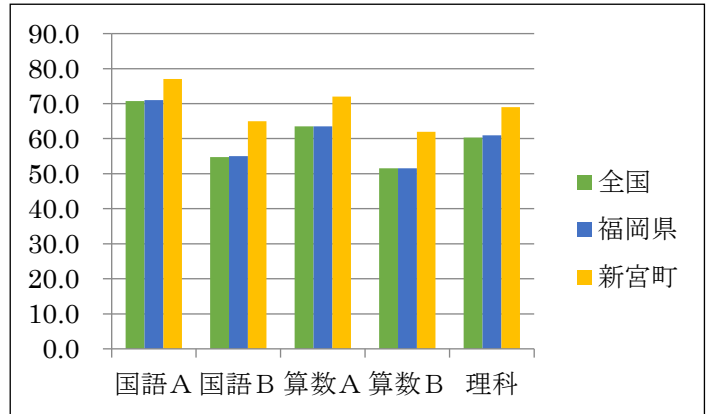
## 1 全国学力・学習状況調査について

- (1) 実施日 平成 30 年 4 月 17 日 (火)
- (2) 調査対象 小学校第 6 学年、中学校第 3 学年
- (3) 調査の内容 教科に関する調査 (小学校：国語、算数、理科)  
(中学校：国語、数学、理科)  
児童生徒質問紙調査
- (4) 調査方式 悉皆方式

## 2 調査結果について

### (1) 小学校の結果について

小学校については、すべての教科にわたって県平均及び全国平均を 6.3～10.5 ポイント上回っている。本年度は、特に、国語 B、数学 B が高い傾向にある。



### (2) 中学校の結果について

中学校についても小学校と同様、本年度もすべての教科にわたって県平均及び全国平均を 3.9～7.1 ポイント上回っている。特に、数学 B が高い傾向にある。

### (3) 全体の結果についての考察

各学校で、調査を行う前年度から児童・生徒の実態を分析し、学力向上の取り組みを計画的に進めながら、同時に自己肯定感や規範意識を高める日常の学習指導や学年経営・学級経営を基盤とした教育活動が展開されてきた取組が成果として現れている。また、小中が連携した学力向上プロジェクト会議、学校と家庭が連携した家庭学習強化週間の取組が定着し、学力向上が成果として現れてきつつある。解答内容を分析すると、正答でなかった問題でも無解答率が全国平均と比べると低く、一人一人の児童生徒が難しい問題に対して、あきらめずに最後まで考える粘り強さが出てきているのではないかと考える。今後も、日常の授業改善に取り組むとともに、反復学習（ドリル学習）や補充的な学習の実施、少人数指導や学習スキルタイムの設置など、指導内容や形態の工夫を行いながら、課題に対して粘り強く取り組む児童生徒を育てていく必要がある。なお、小中学校ともにすべての教科で県平均及び全国平均を上回る結果が継続してみられており、今後も引き続き課題を明確にした取組を推進していく必要がある。

### (4) 児童生徒の質問紙の回答結果の考察

質問紙調査については、「学習意欲」「学習方法」「学習環境」「生活の諸側面」等に関する質問紙調査が実施され、おおむね良好な結果であった。家庭学習について、「1 時間以上学習している」児童生徒の割合は、県・全国平均に比べて高い状況であるが、「計画的に学習している」「予習・復習をしている」割合が県・全国平均に比べて低い傾向であった。今後は、11 月に行われる「“家庭学習のすすめ”を活用した家庭学習強化週間」の取組の充実と併せて、計画的に家庭学習が進められるよう支援体制をさらに整備する必要がある。